

## 八幡社

祭神：品陀和気命（ほむだわけのみこと）または誉田別命（ほんだわけのみこと）  
創建：1398（応永5）年

祭神は品陀和気命（ほむだわけのみこと）で応神天皇（おうじんてんのう）といわれる。「品陀和気命」は父「仲哀天皇」、母「神功皇后」の間に生まれた第4皇子である。創始時期は、昌泰（しょうたい）年間（898～901）といわれている。源氏の家来がこの地に落ちのび、神社をつくったといわれている。1398（応永5）年に中島與（与）五郎が社殿を改築したと伝えられている。それ以来、子孫がそれを引き継ぎ、社殿を整えていった。

六ツ美村誌には、次のように記載されている。「茲に、四条隆資の男與五郎男山の合戦に於て戦没し、後、南朝に奉仕せしが、元中の晩年南北朝和議成るに際し逸して三河に來たり中島在住處士の間に假遇す。此の地に氏神として八幡宮の奉齋しあるを悦び崇敬の餘り社殿の改築を計れり。此れ應永5年（1398年）の事なりき。後、数年にして與五郎京に還り中島を以て氏と爲す。其の子孫續きて中島を以て氏となせり。永正7年（1511年）中島與五郎藤原朝臣方盛（從五位下内匠頭彈正少弼）中島村を領し來り住す。」

八幡神を祀る神社は八幡宮（八幡神社・八幡社・八幡さま・若宮神社）と呼ばれ、その数は1万社とも2万社とも言われ、稲荷神社に次いで全国2位である。祭神で全国の神社を分類すれば、八幡信仰に分類される神社は、全国1位（7817社）になっている。

八幡神社の総本社は大分県宇佐市の宇佐神宮（宇佐八幡宮）である。元々は宇佐地方一円にいた大神氏の氏神であったと考えられる。農耕神あるいは海の神とされるが、鍛冶の神ではないかと考察されている。欽明天皇の時代（539～571）に大神比義という者によって祀られたと伝えられる。宇佐八幡宮の社伝「八幡宇佐宮御託宣集」などでは、欽明天皇32年（571）1月1日に「誉田天皇広幡八幡麿」（誉田天皇：ホムタノスメラミコトは応神天皇の国風諡号）と称して八幡神が表れたとしており、ここから八幡神は応神天皇であるということになっている。

この（中島町）八幡社では毎年10月に例大祭が行われ、「ちりからばやし」が行われる。「ちりからばやし」は横笛、太鼓で山車の中で演奏して回るものである。

八幡社の境内にある招霊木（おがたま）は「ふるさとの木」として岡崎市の指定を受けている。境内の招霊木は、拝殿に向かって右手に位置し、樹齢80年と推定され、樹高10m、幹回り2m、根張り14mある。1915（大正4）年「悠紀齋田」に使用された農具などを納める倉庫が奉耕10周年を記念して、建てられたときそれを記念して早川公之助が倉庫前に左右一対植樹したものである。現在は、左が枯れ、右側のみが残っている。樹冠が広く幹の立ち上がりが端正である。神社によく植えられる木だが、この地方ではあまり見られない。

境内に中島耕地整理の碑（1900年4月起工 1904年5月竣工）がある。全国に率先してこの事業を計画し、石川・静岡の両県の先進地を視察して発起し事業に取り組んだ。それを記念して建立された石碑は、初めは中島町薬師（現在の碧海信用金庫駐車場）に建てられたが、1964（昭和39）年頃、石碑の前面道路（県道）拡幅のため、また同時に側道も拡幅されたため、現在の位置（八幡社敷地内）に移転され現在に至っている。

また、境内には早川治三郎の碑（1928（昭和3）年建立）が建てられており、早川治三郎が中島耕地整理に人力した事が伺える。また、早川治三郎は悠紀齋田お田植え祭りの際に「中島案内」という小冊子を編集している。境内には1812（文化9）年に建立された常夜燈がある。

### [四條隆資（1292～1352）]

四條隆資（しじょう たかすけ）は、鎌倉時代後期から南北朝時代の公卿。南朝の実務における中心人物であり、最後は後村上天皇を守るために自ら足利軍と戦って戦死した。建武3年（1336年）、楠木正成を倒した足利尊氏が京都を占領すると、隆資は郊外の男山に籠もって高師直軍を破る。だが、後醍醐天皇が尊氏によって幽閉されたために再度紀伊国に逃れた。

やがて、後醍醐天皇が吉野に入った事を知ると吉野にて天皇と合流する。

1351（正平6）年、足利尊氏とその弟・直義との確執が深刻となると、尊氏は一時南朝側に降って直義討伐のために鎌倉に出陣した。この隙を突いて翌1352（正平7）年に南朝軍は京都を占領した。後は男山の仮御所にいる後村上天皇を京都に迎えるだけとなったが、その年の3月には尊氏の嫡男・義詮の反撃によって南朝軍は京都を撤退、更に5月には後村上天皇がいる男山の仮御所が包囲された。5月10日、天皇は北畠顕能・名和長重に護られて男山を脱出する途中に足利軍と遭遇、殿を務めた隆資は奮戦空しく討ち死にした。（男山の戦い）

後を継いだ隆俊は父同様に南朝に仕え重きをなしたが、1373（文中2/応安6）年に北朝軍に敗れて戦死。隆資の他の息子たちも隆俊に先んじて死去しているか消息不明で、隆資流の四条家はここに断絶したとみられる。

#### 【男山の戦い】

男山の戦いは八幡の戦い（はちまんのたたかい）とも言い、南北朝時代の観応の擾乱における合戦の一つ。1352（南朝：正平7/北朝：文和元）年の2月から5月にかけて、山城国京都から男山八幡（京都府八幡市の石清水八幡宮）において、後村上天皇ら南朝方の軍勢と、足利義詮ら北朝方の軍勢との間で行われた合戦である。この時、後村上天皇を守るために四条隆資、一条内嗣（経通の子）、滋野井実勝ら公卿が戦死している。



八幡神社 20150727



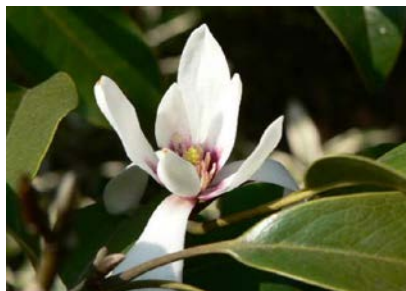
大正宮 20150727



豊田稲荷 20150727



八幡神社 招霊木の木 20150727



招霊木の花



招霊木の花



ふるさとの名木 150727



大嘗祭悠紀齋田 150727

・ 碑文

岡崎市指定文化財

**大嘗祭悠紀齋田**

大嘗祭とは、天皇即位の後、初めて新穀を、天照大神をはじめ天神地祇に供し、自らも食される祭で天皇一世一度の大祭祀である。

大正四年（1915）大正天皇即位の大嘗祭を行うにあたり、これに用いる新米をつくる齋田として、京都以東以南を悠紀の地方、京都以西以北を主基の地方と定め、それぞれの齋田指定地として、岡崎市中島町（旧碧海郡六ツ美村大字下中島字上丸の内）の四反歩

（3960㎡）と香川県綾歌郡綾上町の四反四畝が選ばれ、全村挙げてこの神事に奉仕した。四月二十三日播種（種まき）六月五日田植え、九月二十五日、二十一日刈り取りを行い、十月十六日新穀（白米一石（150Kg））を無事供納した。

この時の田植唄、踊り、用具、装束一式（543点）は市指定の無形民俗文化財となり、また、昭和五十五年より田植唄と踊りは「お田植まつり」として毎年六月に伝承されている。

**[天神地祇]**

天あまつ神と国つ神。天地の神々、すべての神々の意。



耕地整理記念碑 20150727  
1905（明治38）年建立



大正宮鎮座記念碑 20150727



早川治三郎の碑 20150727  
1928（昭和3）年建立



神饌幣帛料供進神社指定の碑  
20150727



常夜燈 20150727



160404 八幡社桜



本項は以下の資料を引用している。

**[わたしたちのふるさと 六ッ南 114 選]**

監修者 総代会長 平井 良美

社教委員長 近藤 武美

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年児童 114 名  
(平成 25 年 3 月 19 日卒業)

編者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年担任

権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛

発行日 2013 (平成 25) 年 3 月 1 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

製本 ブラザー印刷株式会社

発行 岡崎市立六ッ美南部小学校

**[六ッ美村誌]**

編者： 六ッ美村是調査会

発行： 六ッ美村是調査会

発行日： 1926 (大正 15) 年 12 月 1 日

発行所： 日新堂書店

印刷所： 活版印刷所